

## 今回の学びを通して学んだこと、感じたこと



被爆したアオギリの樹が広島市民の希望となっていたことを初めて知って、広島のあるのは、芽として出た小さな木がたくさんの人々の心を支えたのだなと思ひ、どんなに小さいものでも大きな支えになれるということ学んだ。

現在の平和な広島があるのは、先代の方々がどんな時も諦めず、広島復興を強く願っていたからである。平和をつくることはとても大変だから、諦めないで続けることの大切さを学んだ。

本川小学校平和資料館のガイドさんの言葉「平和は行動しないと守れない」という言葉が印象に残った。

目を閉ざさずに、ありのままの過去を知ることが重要だと思った。

原爆などの核兵器の被害を目の前で見て、生の声を聞いたことで、一部だけかもしれないけれど、悲惨さを強く感じる事ができた。また、平和について改めて考えたことで、いかに今が素晴らしいものなのかを感じる事ができた。学んだことを伝えて、平和に近づけたらと思った。

戦争の悲惨さはもちろん、原爆の影響で日常生活が一瞬にしてなくなるという残酷さをよく知った。そして、日本が一番戦争の悲惨さなどを知っていると思う。なので、日本が中心となって、核兵器撲滅を訴えるべきだと思う。そして、日本がもっと平和について広めるべきだと思う。

私たちが今生きていることがどれだけすごいことなのか、どれだけ大切なことが、今勉強していることの幸せ、今飲んでいる一杯の水のありがたみ、私のすること全部が幸せだと感じた。広島にいた人は、私がしているほぼすべてのことができていなかった。私と同じ歳の子もいっぱいいたと思う。戦争というものが生んでしまった兵器がにくい。戦争がにくい。これが、私が感じる事ができた宝だ。

今まで戦争にあまり関心がなかったが、今は少しでも多く戦争について知りたいと思っている。核兵器は落とすことは簡単だが、その後の復興はとても大変だと思う。今の核兵器は70年前の核兵器とは比べ物にならないくらい威力は大きい。70年前でも都市がなくなってしまいうくらいの威力だった。現在の威力を考えてみてください。果たして、核兵器を造ったり持ったりすることは正しいだろうか。

戦争が起こした悲劇や原爆投下による被害について、たくさん学ぶことができました。その中で、原爆の後遺症で苦しんでいる人がいると聞いた時、悲しくなりました。なぜなら、戦争が終わってもなお苦しんでいるからだ。だから、二度と核兵器を使ってはいけないと思った。

戦争の悲惨さ、そして戦争があるとみんなが悲しい気持ちになるということを知った。また、原子爆弾の恐ろしさを知った。今回の学びを通して、当時の人々がつらいことを乗り越えて残してくれた命を無駄にせず、感謝して、1日1日を大切に生きていこうと思った。

日本（広島）の苦しみを学んだ。大切な人が亡くなってしまって、残された人の気持ちは残酷だ。残酷だが、この広島で起きた原爆投下は、日本人は忘れてはならない出来事だと思う。広島訪問で、多くの広島原爆に関する場所を見てきた。原爆ドームは当時の悲惨さを感じる、大事な建物だと思う。

事前学習では、初めて原爆のことを知り、広島訪問では、病気のことや広島が戦後どうなったのかを知り、事後学習では、もう一度振り返ることができた。今回学んだことは、原爆はすぐ造れるし、今も核兵器を持っている国があるから、日本が積極的に核廃絶の声かけをしなければいけないということだ。

3日間、広島でたくさんのことを学んだ。そこで学んだ原爆の恐ろしさなどを私の周りの人たちに伝えていき、たくさんの人たちに戦争のことを知ってもらいたいと思った。

一番心に残ったことは、70年前の命の軽さだ。決して今も、それほどみんながみんな、大切にしているとも言い切れないが、命の重さ・軽さについて考えてみたくなった。また、今後、今回のことをしっかり伝えていきたいと思った。

原爆は人の命を奪い、生き残った人々にも被爆による健康の被害を、今もなお与え続けている。核兵器は、人間社会を破滅させる恐ろしいものだと思う。戦争体験者・被爆者の高齢化が進んでいる今、次の世代に語り継ぐ“伝承者”として、若い人たちの果たすべき役割が大きいと思う。

以前から多少は持ち合わせていた原子爆弾に対する知識を、今回の事業ですらに知ることができた。また、他の中学校の人の意見も聞けて、「そういう考え方もあるな」と思うことができた。この事業に参加した一人として、これからも原子爆弾や戦争について学んでいきたいと思った。

広島の日3日間、どんなにいつもの日常が幸せなのか、自分は何ができるのか考えさせられた。今、戦争から目を背け続けられ、いつか知る人はなくなり、またあの悲劇が繰り返されてしまうと思う。戦争について学び続け、二度と繰り返してはいけないと心に刻んで、広島以外の場所にも訪れてみたいと思った。

原子爆弾の恐ろしさを知ることができた。過去にこのような悲惨なことがあったということは知っていたが、なかなか見ることができなかった。しかし、今回は歴史を見ることができて、とても良かった。戦争について知ることをここで終わりにせず、大人になっても向き合っていきたい。

今回の学びの中で、たくさんのことを学び、考えた。その中でも特に私は、核の恐ろしさを再認識した。広島に行くまで、「原爆」と聞いても、「街ごとなくなる怖い爆弾」くらいにしか思っていなかった。でも、実際に行って資料を見たり、話を聞いたりしている内に、「言葉では言い表せない程、罪深いもの」というように考えるようになっていった。だから、それを体験した人の心を考えると、考えられない程に悲しい気持ちになる。なので、この先、この学習で学んだことを生かし、二度と人類が原爆を使わないように、戦争を起こさないように、周りの人から順々に様々な人へ「“平和”の大切さ」を伝えていきたい。

今回一番印象に残ったのが、戦争が巻き起こす「悲惨」さだった。この悲惨さは、もちろん自然や建物、人の体に起こったことでもあるが、私は人の「心」に変化が生じたことだとも思った。そして、「戦争をしない」ために、今回広島派遣事業で学んだことを、友達や家族に伝えていこうと思った。私の周りには、まだ広島であったことを大まかにしか知らない人たちがいる。なので、私が詳しく伝えていけば、その人がその人の友達に、その友達が知り合いに、という風にどんどん伝え合いの輪が広がっていくと思う。そうすれば、少しずつ戦争についての悲しみや平和についての大切さをみんなが考え、本当の平和が世界に訪れるのだと思う。

戦争に対しての意識が大きく変わった。戦争は怖いこと。それが戦争について自分が思っていることだった。でも、実際に広島に行って恐いだけでなく、その後の人生までもが変わってしまうと改めて思い、それを今度は自分が後世に伝えていくべきだと思った。

平和はとても大切で、けれどつくるのがとても難しいものだと学んだ。みんな「平和だ、平和だ」と言っているが、つい100年前は平和ではなかった。たった100年の間で平和ではないところから、平和になったということは、その逆もありえる。なので、そうならないためにも、個人個人ができることをした方がいいと思う。

「現実で起きたことには思えない」原爆直後の広島の写真や遺品を見た時に、私が思ったことはだれでも思うことだった。でも、今だから言えることなのだと、今回の訪問で学んだ。実際に原子爆弾が投下された時、その場にいた人達は「怖い」「苦しい」では表されない言葉にならない感情を、どう対処すればいいのか分からず、ただただ今でも苦しみ続けているのだから、言葉にならない思いを、今後私は伝えていけたらと思う。

体験した方の講話、原爆の被害を受けた建造物、残酷さを物語る遺品など、ときには目を覆いたくなるような事実もあった。しかし、私たちは歴史から目を反らさずに、後世に受け継いでいかなければならないと思った。この悲劇を、この先ずっと忘れないように、たくさんの人に今回学んできたことを伝えていきたい。